

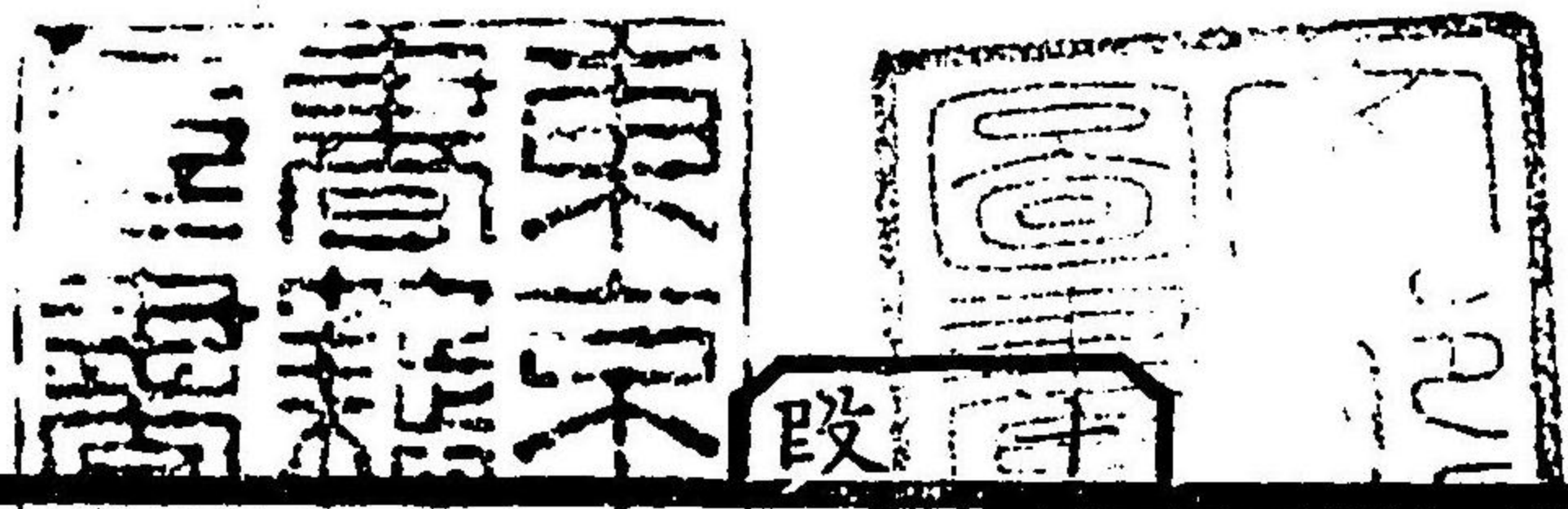
渡
神代狸談

中

泉園書

三冊	二〇〇号	五架	六函	屋	6	3	200
----	------	----	----	---	---	---	-----

共
三
本



猿渡盛章著 神代俚談中卷

孫 猿渡盛愛 校訂

門人 高木正年

其後 天照大神天乃岩戸におり里移る

て 須佐之男命天乃班泊といへる馬を生け

入りひけきハ大神是城足尊き路ひ核

以く法身を傷めぬ念甚くして天

申代里談 中卷 猿渡盛章 孫 猿渡盛愛 校訂 門人 高木正年

天香山余天照國照彦火明命又の名ハ天照乃子
とて鏡作造水直六人初連五百水邨連伊福
連捨余令人連竹田川連箇吹連ちゆ氏と
毛の祖も此社ゆす天麻比止都神もお不きて
又の天照天降麻屋余とも種く此刀斧ま鐵鐸
を作らむ木の麻比止都余は筑紫伊勢あまの
忌部倭根治など祖も此社ゆす天日鷲命も
は穀木を植く白和幣を送らめ長白羽命もハ
麻をうゑて青和幣を佐らむ此穀木麻などこ
形ひと秋の間も生えて蕃茂き一ゆ下傳ひあこ

天羽槌雄命もハ文布を織らむむいたゆる荒た
へ是なり字初御多への衣とも天法様命を司と
して天八子と比賣命を又の名ハ天擲織女と
して神衣をおらむむいたゆる和衣是なり是神
衣祭乃記も此社ゆす天日鷲命ハ日鷲の名ハ天
毛中産巢日神の此子天底立命又の名ハ解懸そ
子天手力男神又の名ハ天磐石命又の名ハ伊佐布
乃子もて粟園忌部多米連天談連弓削連など中
ゆ氏とも此祖も此社ゆす次も長白羽命ハ又の名
も羽命とも天八坂荒命も天日鷲命も此子ゆて神麻

日本書紀卷之八 天孫降臨 天照大神 天照大神 天照大神

天太玉命二神を以てト術を以てハ一む出
天香山の麻を生捕て其肩骨を全抜又ぬき
て天香山乃波加を取其肩骨を焼くくらぬ
せらせらるるよを占兆其謀又かあひより是麻
トとちの紀も内庭外あり天兒屋根命天香山
の五百枝柳を根ちぎる採きて上枝ハ天梯
明玉命の造るる八坂瓊乃曲玉をとりつけ中枝
ハ伊弉理度賣命造るる八咫鏡をとり津
彦下枝ハ天目警命乃造るる素和帶白和帶を
とり垂て以志あぐのまはた天太玉命太玉帶

と取持て天兒屋根命天津祝言乃太祝詞言をた
く中始ひたりまると鶴を集めて互よ志唱せ
む是等の世おで御神樂小倉名子世唱と中子乃
あゝ起よ内庭いまよと手力男神をして岩戸の側
又隠立よめ天宇受賣命又の名ハ天香山の長
とて木と木と根お合さく拍子をとる拍子の舞
り天香山の竹をとりて其節の音又穴をほりて
吹ならしめはれめ世の笛天加奈止美命天香山六
張を金ちり登り松蔭を儲とて金子長白羽命
左右のち小茅と掖をちりて其弦をかき音で

此時又金色の鷲高幡の上より来居り是倭琴の
 紀みそまごのきと中車のもぐめは少産休あ
 又天宇受賣命天香山乃日蔭をとりて鬘と一志
 拆乃あつろをとりて禱小かけ小竹の葉をゆひ
 束ひて色草と一志は鐸の鈴つけとる矛を拵え
 乃稍とを石屋戸乃あは毎火を焼あけ槽をう
 むけ小伏垂てを産をぬえならし神づり玉のま
 祢びし一二三四五六七八九十百子万神とい
 ひておともふうたひ狗乳をかき出し裳袴を臨
 乃あつりまで押多水く霧ひ拵びとせ八百

祢おと老ふとよ老きわくやまか打笑ひぬふはを
 皇女事ま登く神楽のちどめありと経傳の天照
 大御神ハ老やより主經をあやしくお告げらふ
 まゝ天恩屋根命のいは皇中民を祀祠云のめを
 うけをまきとる老とては人多く清せむ老いま
 だかくのめく祠乃うもはきい好といよく
 い率のくく老とく石戸をほそめ又あらく肉よ
 り作らせらるハ切き石屋戸又終り辰身ハ言天
 系かのけうくらく葦系乃中国毛皆常暗なる
 登き又何の故又の天宇受賣ハうとひ登ひます



源正子護國



八百萬神矣やほむすのひふむとひふむ室へむろバあまのり天字受賣命あまのりと
 大なるおほなるをを奉たもむるを大は神おほはかみとはゆきりてを貴神たかみかみま
 一ゆひいのをあはむは八百萬神やほむすの集りてをかくを括くわびを一む
 とは中なのを天太玉命あまのり彼造かぞりてを法像ほりぞのを鏡かみをは出
 一出いしてを忍しのむをきをきをバを大は神おほはかみとはあはや
 くを名なるをおはりをくを戸とよりをかくをかをの方かたをは法ほり造ぞ括
 一はけをきをバをあはぬをてを戸とのを側かたにを隠かくせを立たちを多おほむを天あまの
 力ちから男おとこ神かみ力ちからをは括くわせをてを不ふ戸とをは引ひあはけを大は神おほはかみの
 中なをはとりをてを引ひ出いしを多おほむを中な臣おとこ神かみ思おもひを根ね命みこと忌い神かみ
 神かみ太た玉たま命みこと屍しかばねくをめを繩いとをは用もちうを一はろをの方かたにを引ひりをこ

一是より内へハふたぐび降り入らをあはなをと
 中なはをこのを時ときにを沙さ積つみをは以もてを不ふ屋や乃を内うちへをいをるをと
 てを戸ともをあはりをてを少すく一は假かり身みとをあはりを手て根ね今いま形かたち多おほくを中な
 傳つたへをさてを大おほはを神かみをは彼か造ぞ立たちを一は多おほくを新あらた法ほり造ぞとを選え
 一は多おほくを天あまのを兒こ屋や根ね命みこと天太玉命あまのり日ひのを法ほり網あみをはあはけをめ
 一は多おほくを天あまのを字あ受う賣め命みことハは又またのを名なをは大おほくを能よくを命みこととを毛けハはバは職しやく
 一は多おほくを此このを神かみとを毛け知しるをはは名なのを神かみとを毛けハはバは職しやく
 一は多おほくをらを一はむを今いまのを世よ乃を内うち傳つたのを職しやくハは是こよりを記し中なにをまをす
 一は多おほくを天あまのを手てカを男おとこ神かみハは又またのを名なハは掛か石いし之これ命みこと手て西にし門かどをはち
 一は多おほくをらを一は電かみ天太玉命あまのりハは大おほくを多おほくを祭まつり乃を神かみ日ひがは代しろ執と

乃ハ多シク此岩戸此時乃故多ク云々天字受賣
 命を由坐猪女君ら祖と申天字力男祢をバ
 今又法門乃祢と申天背男命と申申命も是ハ
 犬養縣犬養連官部造今木連巨標連大標置始連
 乃と申申氏と申の祖又申申申申申申申申申申
 天岩屋をおぬふ時言天系ハ云も又申り天のト
 お乃つつ照ありてハ百万神互又申初を足
 あハをぬふ又面之申白たり申申申申申申申申
 に手をたぐて汎ひ舞ひあハ是あぬたれ一乃何
 ふたのあぬさやけたけ神と唱へぬふと神祢

段一十

事果て後直命と申申記なりと申傳ハ
 諸神須佐之男命に被をおるをぬふ事
 若須佐之男命天國を逐拂ハまぬふ事
 又ハ百万神在神あまを以多比大日神乃
 石屋ノ鏡らを給ふる事ハ須佐之男命乃法
 和祈のあしきガ故有終バとてまが須佐之男命
 又子産屋戸と申以重き被を負さハ衆神程須
 佐之男命を奏さハ髪鬘および手足の爪を寸
 へぬのゝ免て棄相と申唾を以て白和幣と申
 漬を以て赤和幣と申一申有あるかぎり乃毛

乃子ちひつものふ出さくして天兒屋根命を
 解除乃太祝詞を中て天小菟をさけ拂て綾の己
 ざ成りひあふ上りあくくは神さち須佐之男
 命乃罪をせめて汝乃雨降珠の卵よあききり
 己亦大信神思屋戸よ鏡らをあふ海での大子を
 引出を至今より此天國よとく浦り住屋うくは
 まの芦系此中園よ毛任づりくまき根園へ住
 屋しとて遠く追をあくくあふまき世は人住
 しみて己が爪を破さめゆりあきハハあきよよ
 至い空傳傳中り天兒屋根命ハ叔の名ハ天
 律

此神玉主命
 乃子興台産靈神
 又天の戸別
 乃女許登能
 直走岐直四國ト部
 乃兄なりまき此神乃后神を天比理刀咩命

申代里卷 中卷 一 神代傳言

と中一官帳子後神天比理の命社有る子
 を大官能奏命と中一此れハ社神の命社有る子
 まさる神又の子を天神立命と中一又神立命ハ
 りとも神解又の子を天神立命と中一又神立命ハ
 命とも中一乃女子を天梯耳命と中一又神立命ハ
 乃忌神抱ゆるもろく乃氏ハハと
 玉命の帥る所なり故よ大玉命ハ忌神首小山連
 日置於白堤首葛野縣主之我重著城並矢田
 纏向神立穴師神立など中一氏と毛の祖より
 外ありよ須佐之男命ハ八百万神とちよ追拂え
 きて天より雨下り所取外をり霖雨降るをバ

孝をゆひまの義等となしあひやどりを法神
 子とあひゆるよ法神皆中一汝ハ雨はあ
 して天國を追拂り外一神なり何ぞ宿をけし
 心ふやとておとをよ拒きて宿をけし神は
 形のりるまバ雨風起るまは毛と毛の雨りあ
 りをゆひ艱苦をまはび多し雨下りたづなり
 世は人業望を忌て他人の業よめる事を忌ま
 是を祀る神を忌て他人の業乃肉よ入事を忌
 是を祀る神を忌て他人の業乃肉よ入事を忌
 是を祀る神を忌て他人の業乃肉よ入事を忌

一被ハ死人を葬る推柳とまぐり一と伝定めら
まきしを食物と充てき種く乃木種を古の海生
しは来い香の子云十猛神毛 神と名は伊太神
神と名は天より降りし一多くの樹種をも
ち来りてくは免ぐりみひ一韓國は極に持
て至て筑紫比島よりは下めて大ハ海國のち
あつてく極めをぬふなく皆喜山と名一極
は伊急よ五十猛神を有功神とハ中ハ是より
古紀伊國名草郡は陸産成り伊太神神社
よの産ハ又此國を本國と中ハ是大神の陸産

段二十

ふなれをなり此神乃女第大屋津比賣命ハ又
名草郡は陸産成り大屋都比賣神社都麻都
比賣神社是なりこまきなり古紀伊國造の齋祀
る神と名は是ハ宮内省小園神社韓神社とて二
産ハ一とまきなり

頃佐之男命ハ候蛇を斬りし事
美奇稲田比賣命を后とりの事

神代卷 第十 神代卷

さく次侍の男命ハお聖國兼川上乃翁上といふ
所より越後守河川上より新乃流是が多を由
境トて此川上よりかたの人の位前ありて
祢尼を命と名づく流は流を往めくをけるる
人の位考のきくえたるありて一ありて
に必りてそ考を志るべしは尋と兼に不果して
人乃まみり有し翁と姫と二人乃中よいと
き少女をまゑと名づく流は流を往めくを
男命とよまゑと名づく流は流を往めくを
たつとよまゑと名づく流は流を往めくを
某ハ國祢大山

は元祢乃子小て名ハ足名推とすハ姫ハ某が妻
小て名を手名推とすハ流なる少女ハ某の女
小て名ハ某髪解奇稲田比賣とすハとぞす上り
る次侍の男命のさかたに汝ら何乃ありかく欲き
かたむやとは尋推とすハ翁ハ翁ハ翁ハ翁ハ
といと悲しき子細有しかく懇切なるハを流
へハおかしき里中屋一翁と姫と流中ハ八人のむ
きめを指し不古志といふ所ハ八侯蛇といふ大
蛇位て年々小島より手むすめを取らひ今ハ
まゑにむすめ一人お跡に不うた大蛇とす

屋き時若なるふあり又此おまめをも失むる
を結てるやう小悲み歎きゆなりと申余きこ
し免してそ大腕乃かちハいの物も相ぞとほ
身も成ゆへハ若て彼をそちと申ハ身ひとつ
して頭ハツ尾もすこハツ有之眼ハ赤くして赤
酸醬汁ひくく熱なるハ苔を生じまじ檜杉など
其者又生おてそ長けハハ谷ハ丘またいり
吾腹を足ゆへむ常におくく血又爛きてそ
おそろしけつかをうり新くゆと申余を記
ホしめてけをとめゆくとよはがむさめなる

を吾もなる屋きや否やと問めお翁すく若て仰
畏りゆへとまいます君のゆ名をうけたほと
せお多くもゆ名をうくひまうゆと申上々
是ハ余もねち吾も天照大御神乃弟もて健速
須佐之男神なり今ハ國より降来きりと宮小足
名推和名推おまかハゆり作乃ゆとむさめ
をあるべしと申法中上々ま令やがてそお女
を市櫛も市取なり申誓も市けり成さて足名
推和名推神も何ゆられゆるハ今より汝とちハ
いろく乃木の實を収集めてやいをりの毒酒



勝月菩薩

雲國とハ中江より法傳いさへけは野今^ノの世^ニ
 教ふ三十一言此短野乃紀又中産^ハの^ハ一^ノ傳^ニ
 やくもたつ出^ル型^トり^ハふ^トハ^ハ野^ハの^ハ國^ヲ
 神の^ハ言^ハより^ハ紀^ハ乃^ハ野^ハと^ハ中^ハ傳^ハへ^ハの^ハあ^ハる^ハ
 佐と男命足名推手名推神を召て使らハ今よ
 皇^ノの^ハ兒^ハ宮^ハの^ハ首^ハ多^クる^ハべ^シと^ハ傳^ハへ^ハる^ハ二^ノ神^ハ日^ノ禰^ノ
 田宮主神といふ必を賜ひき^ハ神^ハと^ハ毛^ハよ^ク
 禰^ノ耳^ノ神^ハと^ハ中^ハ江^ハより^ハ生^レる^ハ新^ノ禰^ノ田^ハ比^ハ賣^ハを^ハ各^ノ田^ハ比^ハ禰^ノ
 命^ハと^ハ毛^ハ中^ハ江^ハより^ハ生^レる^ハ神^ハ乃^ハ名^ハハ^ハ八^ノ島^ノ
 士奴美神と^ハ中^ハ江^ハより^ハ生^レる^ハ此^ハ出^ル雲^ノ國^ハ乃^ハち^ハの^ハ地^ハ名^ハ成^ル
 中^ハ江^ハより^ハ生^レる^ハ子^ハ孫^ハ乃^ハ神^ハと^ハ中^ハ江^ハより^ハ生^レる^ハ

傳へて^ハ中^ハ江^ハより^ハ生^レる^ハが^ハ多^クく^ハ中^ハ江^ハより^ハ生^レる^ハ此^ハ
 大^ノ神^ハある^ハ時^ハ中^ハ江^ハを^ハ傳^ハへ^ハて^ハや^ハど^ハ皇^ノ孫^ハハ^ハ一^ノ所^ハを^ハ名^ハ
 づけて^ハ中^ハ江^ハと^ハ中^ハ江^ハより^ハ生^レる^ハ新^ノ禰^ノ田^ハ比^ハ賣^ハ等^ハ與^ル麻^ノ
 ぬ^ハ良^ハ比^ハ賣^ハ命^ハ中^ハ江^ハより^ハ生^レる^ハ時^ハ中^ハ江^ハの^ハ地^ハを^ハ中^ハ江^ハ
 求め^ハ中^ハ江^ハより^ハ生^レる^ハ熊^ノ谷^ハ比^ハ賣^ハは^ハ中^ハ江^ハより^ハ生^レる^ハと^ハく^ハる^ハ
 中^ハ江^ハより^ハ生^レる^ハと^ハ傳^ハへ^ハる^ハより^ハ中^ハ江^ハより^ハ生^レる^ハ熊^ノ谷^ハと^ハ
 中^ハ江^ハより^ハ生^レる^ハ次^ノ佐^ハ之^ハ男^ハ命^ハ中^ハ江^ハより^ハ生^レる^ハ神^ハ乃^ハ名^ハハ^ハ日^ノ子^ハ命^ハと^ハ中^ハ江^ハ
 中^ハ江^ハより^ハ生^レる^ハ山^ハ口^ハ比^ハ賣^ハと^ハ傳^ハへ^ハる^ハと^ハ傳^ハへ^ハる^ハ
 地^ハを^ハ今^ハ又^ハ山^ハ口^ハと^ハ中^ハ江^ハ又^ハの^ハ子^ハ孫^ハ恐^ノ別^ノ命^ハと^ハ中^ハ江^ハより^ハ生^レる^ハ
 中^ハ江^ハより^ハ生^レる^ハ山^ハ口^ハ比^ハ賣^ハと^ハ傳^ハへ^ハる^ハと^ハ傳^ハへ^ハる^ハ

神代傳記 中卷 二十 神國

又方結と申れ又の子態坂日子命と申れが園を
 ぐりーあふ時惠曇々もて此石ハハとうるち
 くして園形畫鞆乃ぶくちり又の宮をむあ
 又遠くむとけくきよりそ前を惠鞆と申れま
 と女子衝杵等字留比古命と申れが玉めぐり為
 流ひー時多た々もてやのんあらく正しくちり
 ぬ吾ハ此ところ又位むとけくきよりそ前を
 多たと申れまよ乃子態幡依草日子命と申れ
 麻山の上又麻を蒔そめあひーよりけ山を言
 山といひまねちち山乃上又水瀬を法め申れ

又申れ此神の位あひー前を大草と申れまよ
 佐之男命ある時佐世と申れ木乃桑を由頭と申
 一あひを躍里我ま流ひーををを申れかきー此木
 於桑乃流ー前を佐世と申れまよ順佐々よ玉流
 ひてけ園ハ小乃まよと申れ處なり吾名ハ木石又
 是流多と申れ依らまよと申れ乃魂を申れ
 一法めて大順佐田小順佐田を定めぬ故又そ地
 を順佐と申れ祠そありまよと申れ乃酒乃酒
 市費乃前を定免あひー前を酌々と申れ又こ
 の大祓大山津見神の女名ハ祓大市比賣命又娶

て生まざる子哉大年神と申は又の名ハ大歳は
 大比大年神の子大年神まゝの子矣津日子神次
 小矣津比賣命又の名ハ大比乃以二柱の神をま
 小矣津日子神と色申は神と申は日 是ハ今も
 人の家と申はひある竈の神より産み又の子
 阿波岐神次は波比岐神是ハ神祇官小座摩巫系
 る神五座の中より産み又の子香山戸神次は羽
 山戸神まゝの女子大山唯神又の名ハ唯神之 是ハ
 近江國滋賀郡日吉神社まゝ山陰國葛野郡松尾
 神社より産み又の子大土神大土神之名ハ

段三十

神とも是ハ伊勢國度會乃地皇神水々大土神
 神社と申は是あり又の子稻依比賣命又の子千
 依比賣命又乃子依比賣命此三柱の神も伊
 勢の度會より産み又の子若山唯神又の名ハ
 山戸神の子若山唯神次は若年神次は妹若沙
 賣神次は弥豆麻岐神次は夏之賣神又の名ハ
 久々年神次は久々年神次は久々年神次は久々
 室葛根神と申は

八岐土奴矣神由國孫の子
 并大國皇神由生み



古師教画



八十神吾よき一層てまわくあく此淵を添て風
 ありて伏き登りと此へ浦也久きバ鼓の如く
 して一は不きか乃出せくく肉破きてあく若
 一といなりと中は大神皇神を承候よ忍て
 鬼よき一層めふやう志きうた汝もやくけ水つ
 又往て清水を以てよくそ身を洗ひあ門は生
 る蒲葉を取て地よ委ちく一を上よまろびて蒲
 黄を身よつく登りかくいりて身を洗て汝が
 身りく此膚の如く愈癒一とは教訓成り此ハ鬼
 伝びて水を一層のくく一ありける水を身立

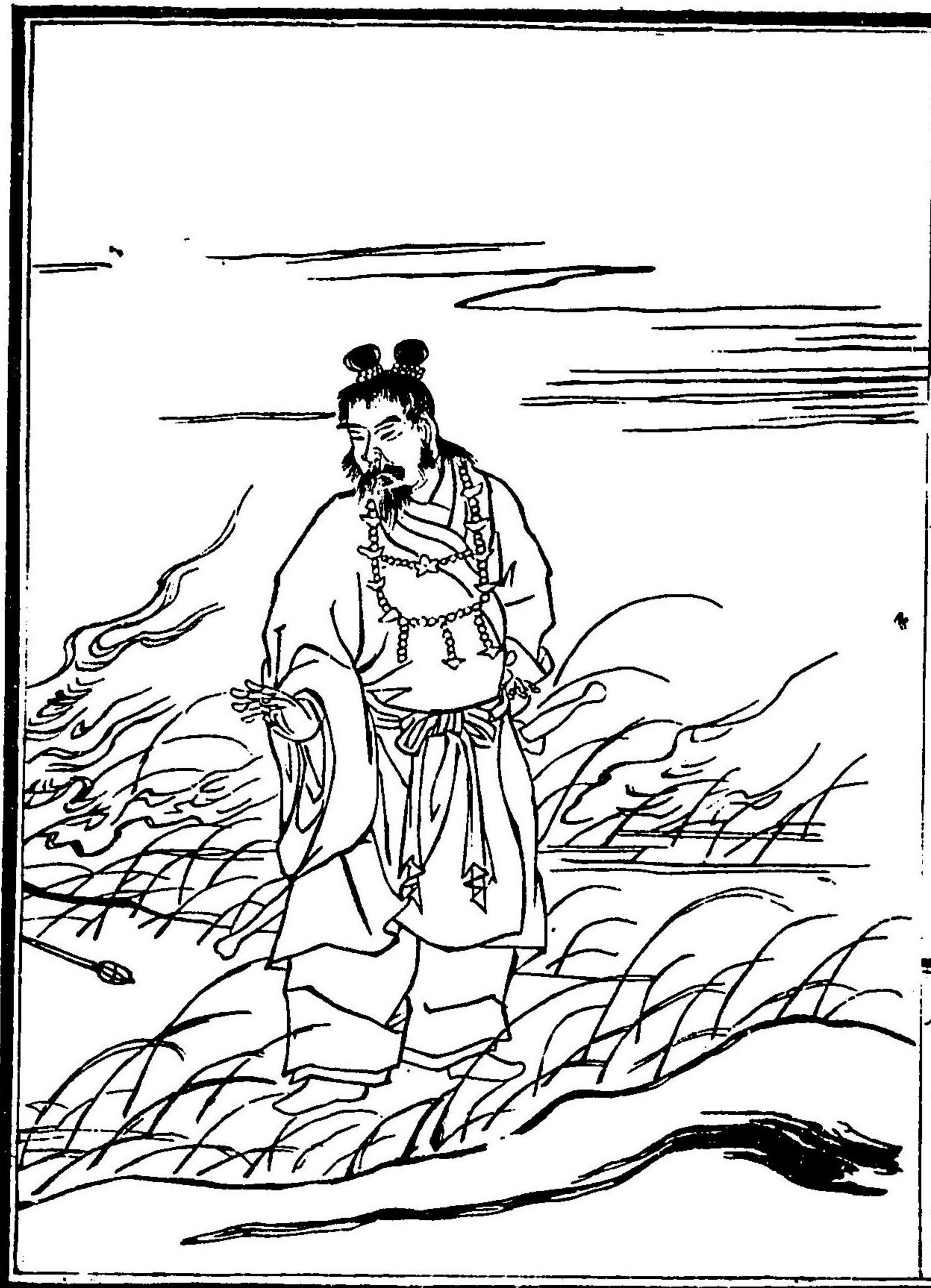
ともろよりく此ぬくよなりぬき時乃鬼大國
 五神より上り家ハ天ハ仁重希のき神よ望き
 今ハ十神因幡乃ハ上比賣を齋て是をほむと思
 ひぬくど毛かたしはほむ事あつた一儀を肩ひ
 めくが女君こそ難をほむまひはをぬとぞ中
 歌を因幡乃素鬼と中て今又鬼神と中ひきて
 ハ十神ハハ上比賣此許よ玉まてさるく一
 をいどむといへども難きうたを河よあつたを
 汝がちかく起る中路へも吾をよほひが
 一吾ハ大御主神よあふくくろ小ありと言はあ

ひらき大國主神を手中に入らめ後よそ矢を
 おぬきて遂に拷殺しありあつよそ祖神歎出
 たりてまゝそ木を裂て死出さる蘇生しめ後
 不さて祖神大國主神を信し進るる汝う
 て此のよ居るを遂に八十神の多めを亡し
 産しをやく紀伊國なる大國主神の内を
 産しゆく産しとて産しや里あひけり八十神ハ
 是を志すてそ産しを出さる矢を射りけむと
 る時大國主神ハ木の股を握りぬり出て逃げ去
 ひしとぞ

五十段

大國主神見國を往りよそ英八十神
 を出征伐乃り

あつよそ大國主神古神を大國主神を
 して語りあふをすてゆく考す
 ば汝今より頃佐し男大
 神の内産すむ根國を往り必す大
 神の内はらひある産しを
 諭しあひけり大國主神を
 産しとて産しとて産しとて
 産しとて産しとて産しとて
 男大神の内女頭勢理昆賣命を
 垣見あひて大國主神の威ありて
 極りて産しを容顔をめで



勝月謹書

方より火をたふちて手裡を焼くてあひ乃れを
 か癒さあちくあちて癒ひあふあといひこと毛
 乃く氣を重て内ハほらく〜外ハまがく〜
 いひ乃るあちて試みるあを踏て以焼むれを深く
 増て内身をかくまふ足水至大國主神暫くまゝ
 まひそと隠身して少産は成り神は神宮ハちやく
 焼通り乃ちまじ時うは鼠を鳴彌矢をく〜
 大國主神もぞま〜上り家但し千矢の羽ハ氣の
 子と取鳴ひそまひ〜と伝〜して須勢理比賣
 命ハ大國主神この度乃内危難ハ内産産河原の

たりと云ふく己は藥の具と毛あは用事あま
 て持来あひく内患歎け成り須佐の男命も大國
 主神ハあちて死〜と云ふくを神よかて少産
 トり身バ大國主神恙なくて千矢を指成りし
 あげあひ乃れを次佐の男大神を千満くは位居
 乃は位居は成室屋乃ち小内呼入成りを位居
 の風を〜を珍ふ大國主神も大神の位居を
 護られを呉公多く居たり此時須勢理比賣命標
 木の実と赤土と成大國主神も授あひ乃れを
 木の実を嚙破り赤土を食て唾〜あひ乃れを

千大神の御代に異公をとりて嚙て唾するやと
男はは心おちちに嫁く木がーめくやぐて
古心よくは孫入抱をーり金手時大國主神ハ大
神のは髪乃毛を室屋乃垂木おくはむすび
つけら成五百人むりもて引垂きちどの大鬼
を引垂きて室の戸を塞きさく頃勢理比賣命成
む古脊又肩ひぬ大神の秘苑ーあくる生太刀
生弓矢まゝ天沼琴といつるは琴をさくよえ指
て生取を逐出あふけよ琴亦よけそまて唱
まらぬむらぬ孫入ぬひー大神少孫きて祀と皇

あふとくを室屋を引倒しはひぬきけど垂木よ
むまびたるは髪乃毛を解あふる大國主神ハ
素くは髪乃毛を解あふる大國主神ハ
で追来あひて追大國主神を古吹うけは成ひ
て生汝が持く生太刀生弓矢を以て汝が度乃
見才どもを坂の古尾又追伏を河の邊又追を
ひ汝大國主神とふまゝ宇都志國玉神となり
てやがむまめ頃勢理比賣を嫡妻と外く宇迦
の山布又ま造く永く國中を治むと伝ら
きて遂よまらぬあひらのさて大國主神ハ根

國より少海に於て淡幣理比賣命をバ志げく外
 には急きて至死の性をもむあひの子宮の若
 まひの如くあまの宮に在りて清の宮に大
 王主神ある村此宮を少海に清幣哉と行々
 して皇孫を清校と申し皇孫傳ハ大國主神ハ
 彼八十神を追返す國のちも皇孫のうづべと
 名下てまが要害の城を造りふを不を城名極山
 と申しあつたはいて彼生た刃生弓矢を持て猛
 きは勢ひをふるひて八十神を追返伐成ある
 ひハ坂の尾に依りて海をハ何の難も追返す

ひぬひの身をハ十神も追返す敵する事叶う
 く悉く大國主神もあつたはいて國中忽ち平安よ
 及び皇孫を返りけあひの宮を末次と申しすこま
 の大神の射探を地を弓射あひの宮を矢代々
 とひ笑を殖あふ不を矢内々と申すこ因幡
 のハ上は賣ハさ紀の宮に於てはは嫁に於て
 子は誕生をありて子をばをまきとて侍あり
 ひりきとて毛髪ハ孺妻理比賣命の宮に嫁に
 おそめてを生く子を末の股に侍りてをまき
 きて少海に於ては子をばを末の股に侍りてをまき

神代傳説

申

三十五

國

毛すこは井神と申すは是ハ神祇官ニ座摩巫系
 神五座の中ニ生井神福井神細長井神と申すハ
 此神より生れり

大國主神少毘古那神と力をありきく
 國を祀りしめたる事

あはる大國主神西中を以て要定されし時出雲國
 の伊佐小漢とりし所より休息されしを以て
 事やと稱すしは是れを時海の上より人々考問え
 りきバ驚きしを以て後きよまは目よかへは毛の
 あはるがまらば智あまそつとちひさき野の神天

段六十

灌摩船よお皇鵜鷲の羽を為物よしるるの
 鳥さかひしつと浮び居たり大國主神と小きを

あやしとて取て多しひしよま急て以て後
 くらを以て神踊りあがしつては都は嗚呼ありいよ
 以て怪おとあはるを名を問ふくも毛あはるよ
 つぎは信乃神と申すは同命を以て成りしは毛
 證あまを以て神乃名を志依者あり時よ谷具久と
 いふまはあまを以て久延毘古よ言ありしは
 可中と申す依て久延毘古を以て毛あはる成りし
 を久延毘古と名を以て神産巢日神の所より

毘古那とワム神なりと申し是よりして使を天
 よりて神産巢日祖命より上あひたり是バ神
 産巢日命はひたり是よりしては子孫
 りやがらめ子孫千五百神ありを申す
 侍りて教又志すは手の侍より漏落
 子孫今よりめぐる事して汝大國主神足神と
 ありて千國を仰望む事と諒しあひたり此手
 侍りて漏落しとワム神を以て少毘古那神を
 手間天神と云すは七姫神と申す神と云すは
 産巢日神の長子に産巢日此神の名を以てあり

多る彼久延毘古ハ今山田の曾富騰と申す
 此よりこの神是ハ歩行してあはる天下
 乃事を知る事はと云傳は是よりほハ大國
 主神と少毘古那神と二神おなごびて力をあは
 せし國古を由作國免身成以時ハ伊弉諾岐大神
 の由末乃子孫加武呂命又の名ハ加武呂
 命は此神を二神とあはるは此神ハ二
 神ハ是を司めて國古のいまはるは
 此ハ葦薦菰などの類を植えて築くは是
 申すは此神は是を葦原國とハ申す

手時稻種たねの意一為を今多神たかみとて以てある時
大國おほくに主神ぬしは病悩やまひ乃時沙毘古那さひこな神是を愈さむと
て空後あかご園のち大分速見湯おほくはやくみゆを下樋したひとて持てて皇孫みまろ
しと湯浴あびさせ申す終に法絶忽はつたつとて皇孫みまろハ志
はしの有為ありとて伊孫いそ園のち温泉おんせん郡ぐんある温泉おんせん是あり
記上りあふ今湯いまゆの中は石いしのうらみあり
とて皇孫みまろは伊孫いそ園のち温泉おんせん郡ぐんある温泉おんせん是あり
官帳くわんぢやう温泉おんせん郡ぐんうらみ二神ハ人民じんの疾病ぢやまひをあそ
ふ今諸國いましよこくある温泉おんせん郡ぐんハ温泉おんせんの御みこをたてめ給
ふ今諸國いましよこくある温泉おんせん郡ぐんハ温泉おんせんの賜たまひ

此意こゝは人民じん及び畜類ちゆうるい乃と名なは病やまひを愈なほす方
を定さだめし皇獸すうじゆ虫むしを乃災なを除のぞく禁厭かみえんの方かたを
教おしへぬ今民いまたみ有ありと傳つたへて志こゝろ終はある禁厭かみえん青菜あおな
の類るいハ此二神こゝにふたかみの造法つくはを人民じん今とあるまじ神
恩おんを蒙あまらさるハな故ゆゑハ此二神こゝにふたかみを医菜いさいの祖神すそかみ
と申まをす、沙毘古那さひこな神酒かみを造つくるためあふゆゑ
又の名またなを久斯くし神かみと名なす、久斯くしハ酒さけ あり、大
國おほくに主神ぬし沙毘古那さひこな神かみは古語ふるご拾ひろへて皇孫みまろと
汝なと造つくる園のちと成就じゆじゆとて皇孫みまろとて
同おなあり、皇孫みまろは沙毘古那さひこな神かみは皇孫みまろとあり、ひを成なせ

る所あり或は成る所ありと申すはけるを
其後少毘古那神ハ伯耆國に粟嶋と申す所は成
其成果を蒔みひてを粟のよき実なりある時を
蓋よ内はあり其成を為す彈うねて世の
花よく生あふ故よ其地を粟嶋と申すは此二
柱神石見國に磐石と申す所あり其
所を神の岩屋と申す是神有る所と申す少毘
古那神己は外國へ行く所あり其地を大國と申
すは此處へ其成を為すは其地を造
る事を行む今よりつぐまの神と申すは其の國を

作らむとは知事よ其地を造る時忽ち
一きひのり海の上をててて白衣を為すは
天孫を指すは神流の上よ其地を造るは依
其地を神大國と申すは向て是よりよく吾を
ば吾おとをよ國を造るは其地を造るは
がよ其地を造るは其地を造るは其地を造る
うねる神ぞ其名をきくは其地を造るは其
神吾ハ汝が幸魂奇魂なりと申すは其地を
其地を造るは其地を造るは其地を造るは
魂なるを造るは其地を造るは其地を造る

やと同めくは吾を大和國の宮垣東の山上よ
齋ひ来るべしとぞ中めひける是よとて
あふ降くは彼よは宝を造るは
めめいさ子所を修室山と中は是中水も大和
國城上郡大神大物主神社を
俗に云輪のま
と此神の荒魂神を大和國城上郡狹井座大神荒
魂神社五座と中は是を少毘古那神
國又よきりあひしよ大國主神ハ和魂神と
力を合きて廣糸を由杖又突きよきて玉内を
欠りてあしき神をちし平げ給ひしなりそ

乃名を八千矛神と名中はまゝある時
深くは祓身成りし時國ハ丁寧よ
なりと修りしを丁寧と名け今の人ハ
て深と申てまをち祠をよまは此大神天
皇領田の由余造りしを求めては巡行有る家
時暴雨久多葉山と修りしを改漂と中は
さけはハ大さび小かを川上ハ木穂刺加布
川下ハ河志婆をひりしハ爾多志松小國
なりと修りしを仁多と申す三處を
由覽して此由の由たりし田なりしが由

地の田と行々を三處と申すはある
時大國主神由國を化終ふ時田つくる人ど毛よ
牛の肉を食ハ一めあひ一に由年神の由子由國
よ由きて食およ唾をきて胸のひ父命よ由何
るやうを化終ひけは由年神を穿て大よ由
腹立は成る由蝗を放ちあひくは苗の蘆立
とくろよをを要して枯損ざり大由主神おどろ
化終ひて片巫胎巫といふ巫をぬ一降て古き
めあひくは巫占て中く由る是ハ由年神の由
崇なりちや一被神の白猪白馬白雞を狩りてを

想をやけくげあふ一と申すはあち巫が十
せよア一を品くを由年神も狩りてまびあひ
乃形を由年神のあひくはハ是あつとよまあ
為なり今を熱を降らむハ麻柄を以て持を化
て拵げを葉を以て是を拂ひ天押草を以て是を
押し扇扇を以て是をあふ一蝗は去むハ
溝口ハ牛の肉を茹き男蒸の形を作してまあ
そく葦子山椒吳桃葉ま一鹽をそ味よわのちを
食一と論一あふ大國主神を論の下く一は
ひくはを苗の葉ををま一や一びまがりて年

穀申、このは熟し多り、今白猪、白馬、白雞を以て、此
年、神を祭る、は是より、祀をり、と、傳へ

大國主神は妻とひの事、是は裔の神、
也事

段七十

このて、大國主神は威勢、ま、
乃下は、諸神、聚き、從を、
の國は、意支都、久辰、為、神の子、
は、沼河、比賣、勢余、と、
あ、
は、

お、ち、よ、み、珍、ふ、は、

ハ、子、牙、の、神、は、命、ハ、八、島、國、妻、ま、
ハ、
女、を、
を、
て、
板、
ひ、
里、
く、

志こふやあまをせづうひ事の諸おとをこ
をバ

かくよみほひくるよ 沼河比賣を夜ハはを新成
がへたすーやまらむいまぶをひくうべーと
内よりほあー身をまをめふ

ハ子牙の神は命ぬえ菜の女ーあまバと
か心うー心の身を今うたハ子考よ何うめ
後ハあどりまあむを舎ハあーせ給ひそ
妻山は日がかくくバぬを玉の授ハソで家
む能ハわあー所うんきてたく川ぬの白き

多しむきあを雪乃己のやる胸をそぐー死
たつき浦ふがりま玉手多乃手ハーまき毛
も考まいハあさむをあやまあひきー
ハ子牙比神乃みくと事の諸出と毛出をを
あくほとみあはー新成ゆてを夜ハはを新成
くるおのを合抱をーな家出くよ大國至神の
嫡后頃理畏妻命ハ妻とよりほ相ねーみあ
きは性質あまらきハ時神をを和びーあま
ある時考屋園より大和園よりあまを給をむと
ては装束をさくーたかかーおとむとー給

神代里

卷

四

卷

卷

卷



神代里

卷

四

卷

卷

卷



有御敬画

位あひし一不を今多伎とす以て味鉏言日子根命
 八法成長形成ゆへと毛相ゆひ形ゆゆ形くきど
 是教とあくは相がう望形依て此ゆ子の福
 と言き家を選てそと又位一ゆ形ゆ様をきて
 此ゆましくく望ては普育形成ゆを所を言岸とす
 以ましく祖命ゆ子をゆ形ゆゆをて八十島をめ
 ぐりてをは心を思あきどあひしゆゆを形位
 ぬゆゆや海ぎまろゆを祖命あ多時ゆ子の位
 よりゆゆをすて愛のゆゆは形ゆゆゆゆをゆ
 ゆ子のゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

めておひひうけて試みあひなるよは味と一と
 味ト形成ゆゆ急は味と一いゆとをゆゆと回
 あくをまゆをちゆ祖命乃は氣を立さまて外の
 方よおて石川をゆゆ望上よとゆゆゆゆゆ
 とはゆゆ形成ゆゆ時を味ゆゆ水を汲てゆ身をそ
 死形ゆゆゆを三味とすて初五ゆゆ後の世も
 け園の望遠羽廷まきりて祿吉事とすは祝云を
 中上の時ハ必らのあを汲て用ゆゆゆゆゆゆ
 まゆ今も孕ゆる女ハ彼村の船をくゆゆあ是を
 くゆゆハゆゆあ子啞とすゆゆゆゆゆゆゆゆ

鉦高日子根命の后天内撫日女命多伎都比古命
を由生多岐小内母命多吉村よ内殺ら成この
内ハ内余の内祖の向位なり子を由くま生く
バよあーかむと作らき一也きぬをち神名種
山の西よある言さ一丈冬ぐ星一丈むりりめ石
神まぐ側よ百むり星のちひき足石神まをハ
多伎都比古命の内魂なり日で星まを時雨を
バ必志命ありきむす神のまこの子鹽治
畏古命の内ま由ひり成内雨を止屋と中ハ神
の子を焼太刀火守大極日子命と中ハよ大國

主神遠津彦よ由一まハ言は比賣命よ
中命と娶ま一く生ませる子積羽八重奉代主神
次は妹高照比賣命と中ハよ一頃佐と男命の内
女八野若比賣命よ娶むバさむとて屋を成り
ひ一雨を八野と中ハよ一裁の沼河比賣命よ娶
由一く生ませる子高穂須一又命又神ハ備
ハ此神の位はふ雨を英保と中ハ又の子山代日
子命の位あひ一雨を山代と中ハ祠と又の
子高布都主命内神成内時よ大野谷の西山よ
列率をま一括をよまあひくよ一括水山

の阿波谷とりの所より移りて其路を足欠ひぬ今
時おのつら猪乃跡うをぬと修くまし不を内
野と下今大野と下ハ龍のよし中傳ひま
此神天市原田の若多り一时任あひし今を英
とすて初習し此この大正主神の由子まをて百
八十一神より中より十五柱は神ハ在珍子よ後
して天下四方は皇人と見あはしくく其神
恩を蒙りりす大國皇神後門日女命を由妻と
ひり成ゆ時此姫神はひあはれして御臨ま給
ひしをうりしひおめあひし一而を今よ守智とす

以ちて辨山よゆりまは玉著玉之形日女命よ
娶は成りて新くとも市通ひ新故しき不を辨山
とすは二柱の女神ハ神産巢日由祖命は女
新り又の子ハ尋神長依日子命は神見が由人平
神憤りしと修くまし不を空馬と中けよまは
子薦枕志都沼值命又の名ハ神申神値可此神の
任あひししを漆沼とすて初習し又の子支佐
見比賣命又の子守武賀比比賣命らの神法若
にたりて花やより法あひし不を法若とす又
女子天活玉命又の名ハ伊是ハ猪使連恩智神皇
申代里炎

ちどちの氏と名の祖より産け又の子天三降余
 是ハ吾弟國宇佐國造の祖より産け其支佐貝比
 賣命猿田毘古大神を榎垣之名ハ祖神と申す
 海むと一あふ時持珍ひ弓矢を失ひあふ母
 支佐貝比賣命任り多る吾子尚産く神の子よ
 あり海を失くる弓矢者其是と申す流流以時
 角の弓矢ありあふかひて流流以時生産めよ
 内子足ありて是ハ弓矢又ありてと申す
 ちまの金の弓矢流流其是と申す是をまふと
 して鬮き岩屋なるより神と仰ぐ是を被弓矢を以

て岩屋を法射通成ゆぐを矢の穴より走る
 がやきくゆぐうまお成中いそ雨を加くと申す
 加賀々加賀々神勝と申す是なり佐太
 大神内務坐の不成り官帳王秋鹿郡于此祖支
 佐貝比賣命の社也佐賀今の人此窟屋
 のをを申す時ハかなくは産をあらへ呼産ぎ
 つ通ひをりる志のありて此雨をまふ時を
 神ありてこれ飄風起るは雨ハかなくは
 うるより申す

神代傳言
中卷終

